【２】　研究の経過と本年度の取り組み

［１］　平成７年度（１年次）の取り組み

(1) 取り組みの構想の立案

高等部の生徒にとって「生活を楽しむ」とはどういうことか、「生活を楽しむ」ためにどんな力をつけることが必要なのか、などについて話し合いを重ねていった。

(2) 実態把握の方法の検討と実施

生徒の実態把握の方法として、毎年行っているＷＩＳＣ－Ｒ知能検査、Ｓ－Ｍ社会生活能力検査の他に、田中ビネー知能検査も取り入れて実施した。

また、生徒一人ひとりが自分づくりのどの段階にあるかを検討し、段階に応じた生活を楽しむ具体的な姿を確認し合った。

さらに、「自分の生活の中で何を楽しいと感じているのか」について個別に聞き取り調査をし、傾向をまとめていった。

(3) 一人ひとりのめざす「生活を楽しむ」像を設定

高等部の研究テーマを生徒一人ひとりにおろして考え、一人ひとりのめざす「生活を楽しむ」像を設定した。

［２］平成８年度（２年次）～平成９年度（３年次）の取り組み

(1) 実態把握の継続

１年次と同じ検査により、発達年齢・社会生活年齢等を把握した。また、生徒達の自分づくりの段階を確認し、それぞれの段階に応じた支援の仕方を工夫することとした。さらに、「生活を楽しむ」に関する意識調査を卒業生にも行い、卒業後の実態についてもより詳しく把握しようとした。

(2) 一人ひとりのめざす「生活を楽しむ」像を設定

年度当初に、一人ひとりの「生活を楽しむ」像を設定し、実践に取り組んだ。

(3) 授業づくり

研究教科・領域を設けて、題材の選定や支援の工夫について検討を重ねていった。

(4) 個人事例の追求

個人事例の対象生徒（自分づくりの段階の異なる生徒１名ずつ）を決定して、「生活を楽しむ」をめざす個に応じた支援の工夫や生徒の変容について追求していった。

(5) 評価

授業づくりについては、学期毎に生徒の目標や支援について、反省や評価を加えて、次へ生かすようにした。また、年間指導計画について検討し、題材の選定についても話し合いを重ねた。

さらに、本年度は、このテーマでの研究の最終年度であり、高等部の生徒や一部の卒業生に面接調査をし「生活を楽しむ」姿を追ってみることとした。

（河田祐子）